

講師紹介



石黒 浩

大阪大学 名誉教授
(大学院 基礎工学研究科システム創生専攻 教授)

1963年滋賀県生まれ。自分とは何か、人間とは何かという、解りそうで解らない疑問に支えられながら、ロボットの研究をしたり、芸術的な活動をしたりしてきた。自分そっくりの遠隔操作ロボット、ジェミノイドを作ったことで、その疑問はさらに深まったように思う。今後はだれもが遠隔操作ロボットやCG エージェントを使うような未来を実現したい。



松尾 豊

東京大学大学院 工学系研究科
人工物工学研究センター / 技術経営戦略学専攻 教授

1975年香川県生まれ。1996年に、学部4年で人工知能の研究室に配属されて以来、25年以上、人工知能の研究を行っている。博士を出て、最初に就職した産業技術総合研究所では、中島秀之センター長(当時)のもと、サイバーアシスト研究センターに勤務。その後、スタンフォード大学客員研究員を経て、現職。学生時代から、推論、自然言語処理、ウェブ等の研究を経て、現在は深層学習をベースにした世界モデル構築や記号処理との融合に興味を持つ。おそらく脳の大域的な仕組みが解明される日は近いのではと、思っている。



松原 仁

東京大学大学院 情報理工学系研究科
附属情報理工学教育センター / 電子情報学専攻 教授
東京大学次世代知能科学研究センター 教授

1959年東京生まれ。その後北に流れてつくば経由で函館に20年間住んだが、現在は川崎という生涯の最南端で生息。一つのテーマに留まらないことをモットーにしているAIの中でも他の人が手を出さない研究テーマが好きで将棋、囲碁、サッカー(ロボカップ)、小説生成などに手を出してきた。現在は人狼、カーリング、俳句生成などに手を出しつつある。一方で最近ではAIの社会実装にも興味を持ち、交通、漁業、画像認識などの応用に関わっている。常に新しい研究テーマを模索中。



中島 秀之

札幌市立大学 学長

1952年西宮生まれ。関西弁と関東弁のバイリンガル。その後東へ北へと流れて現在は札幌在住。学生時代からAIの研究を40年以上続けている。最近はデザイン学やサービス学にも色気を出しているが、特に次世代のモビリティ・サービスの実装に意欲を持っている。インターネットのモビリティ版となるようなプラットフォームを構築することを目指しているが、その一部は札幌で実現の予定。人だけではなく雪やゴミを効率よく運びたい。



松浦 和代

札幌市立大学 副学長・看護学部長

天使病院、札幌医科大学衛生短期大学看護学科、旭川医科大学医学部看護学科を経て、2006年8月より札幌市立大学看護学部。専門は、小児看護学。



齊藤 雅也

札幌市立大学 デザイン学部 教授

1970年三重県津生まれ。幼少時、伊勢神宮そばの五十鈴川で泳いで育つ。柔道、アイスホッケーと当たりの強い競技が得意(元アイスホッケー国体千葉県代表)。専門は建築環境デザイン。札幌市円山動物園の動物たちの住処のデザインに手を挙げて15年。また、ヒトの想像温度(いま、何℃と思うか?)の研究に夢中で取り組んでいる。ヒト×AI=〇〇?を妄想中。



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY